

9. 令和5年度埼玉県てんかん地域連携体制整備事業活動報告書

埼玉医科大学病院小児科・てんかんセンター 山内 秀雄

まとめ

1. 埼玉医科大学病院が実施したてんかん診療医療連携協議会開催、相談体制、治療体制、研修の実施、てんかん普及啓発事業、後援事業について報告する。
2. てんかん相談体制では、埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」で5名のてんかん診療支援コーディネーターによる総件数303件の電話相談を行った。また、日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回のインターネットによる公開相談会を開催した。
3. 治療体制としては、「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施し、「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い、令和5年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開する予定である。
4. 院内のてんかん研修では、てんかんセンターカンファレンスを計11回、特別講演会を1回、小児てんかんカンファレンスを44回開催した。また、院外でのてんかん研修として、てんかん診療コーディネーター5名が全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回参加した。
5. 一般市民を対象としたてんかん啓発事業として、市民公開講座や難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベントを開催した。また、パープルデーの開催やてんかん啓発YouTubeチャンネルの開設準備を行った。さらに、埼玉県内の教育関係者を対象としたてんかん研修会も開催した。
6. 新型コロナウイルス感染症の影響が見られましたが、ほぼ予定通りの活動を行うことができました。今後もIT技術を活用しつつ、てんかん診療の充実と啓発活動の拡大を進めていく予定である。

1. 緒言

平成30年(2018年)11月1日に埼玉県てんかん地域連携体制整備事業に基づき埼玉医科大学病院は埼玉県てんかん診療拠点機関に指定された。その実務の執行の大部分は埼玉医科大学病院てんかんセンターによって実施されているが、当センターは「学際的包括的連携による医療と福祉の理想郷を実現するため、高度なてんかん医療を提供する基幹施設として地域医療に貢献する」ことを理念とし、以下の基本方針と持っている。

- 1) 患者さんの幸せのために安心して質の高いてんかん医療を実践し、地域医療に貢献する
- 2) 高度なてんかん医療を提供する地域基幹施設としての役割を果たし、関連施設との連携を行う
- 3) 人格的にすぐれ高い技能を持つ人材を育成し、診療に役立つてんかん研究の推進に努め

これらの方針に基づき、主に埼玉県内におけるてんかん診療連携と啓発活動を中心に、令和5年度に実施した事業について報告する。

2. 令和5年度事業計画

令和5年度埼玉県てんかん地域診療連携協議会(以下、協議会)において、山内秀雄氏が協議会長に就任し、議長を務めました(以下、敬称略)。協議会の委員は表1に示される通りである。令和5年4月18日に開催された協議会では、令和4年度埼玉県てんかん診療拠点機関事業の報告が行われた後、令和5年度の事業計画案が提案され、審議されました。提案内容の概要は以下の通り。

- 1) てんかん相談体制として、「埼玉県てんかん診療相談マニュアル」に基づき、てんかん電話相談を実施すること、またウェブ上で公開てんかん相談会を行うこと。
- 2) てんかん治療体制として、令和5年度版「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の作成。
- 3) てんかん研修の実施として、てんかんセンターカンファレンス症例検討会(毎月1回)、小児てんかん外来カンファレンス(毎週1回)の開催、そしててんかん診療コーディネーター研修会(年2回)への参加。
- 4) てんかん普及啓発事業として、てんかんセンターカンファレンス特別講演会(年1回)、てんかん市民公開講座(年2回)の開催、学校教職員・校医を対象としたてんかん教育講演の実施、そしててんかんセンター・難病センター合同啓発イベントの開催。

上記の提案内容は審議され、承認された。

氏名	所属及び役職名
山内 秀雄	埼玉医科大学病院 小児科教授・てんかんセンター長
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科准教授
遠藤 宝香子	埼玉医科大学病院 てんかんセンター看護師
佐藤 祐子	埼玉医科大学病院 てんかんセンター看護師
落合 卓	おちあい脳クリニック 院長
浜野 晋一郎	埼玉県立小児医療センター 神経科
中本 英俊	TMGあさか医療センター 脳神経外科部長・てんかんセンター長
相川 博	大宮西口メンタルクリニック 院長
横田 淳一	埼玉県保健医療部 健康政策局長
根岸 佐智子	埼玉県保健医療部疾病対策課 課長
高橋 司	埼玉県立精神保健福祉センター センター長
丸山 浩	埼玉県川越市保健所 保健所長
福田 守	日本てんかん協会埼玉支部
高山 久雄	てんかん患者さんのご家族、日本てんかん協会埼玉支部
丸木 雄一	埼玉県医師会 常任理事、埼玉精神神経センター 理事長

表 1

3. 実施内容

1) てんかん相談体制

①埼玉医科大学病院内に設置された「埼玉県てんかん相談窓口」において「てんかん診療相談マニュアル」に基づき、5名のてんかん診療コーディネーター（佐藤祐子、中澤望美、坂本綾佳、菊山絵美、加藤加奈子）による総件数303件の電話相談を行った。相談内容としては、治療薬の調整に関する最も多く146件であり、次いで検査・疾患に関するものが119件、妊娠などに関するものが27件、その他26件であった。

②インターネットによる公開てんかん相談会「埼玉県てんかんなんでもウェブ相談会」を日本てんかん協会埼玉県支部との共催で3回開催した（令和5年6月10日、11月18日、令和6年3月9日）。相談役は埼玉医科大学病院小児科山内秀雄・松本浩、精神科渡邊さつき・村田佳子、脳神経外科平田幸子・高島和彦、TMGあさか医療センター脳神経外科中本英俊、埼玉県立小児医療センター神経科菊池健二郎が担当した。

2) てんかん治療体制

①埼玉県内てんかん診療機関、治療レベル、診療連携状況を把握するための「埼玉県てんかん診療実態調査」を実施した。調査結果に基づき「埼玉県てんかん診療医療機関一覧」の改訂を行い令和5年度末までに埼玉県ウェブサイトで公開予定である。

3) てんかん研修の実施

①医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医学生を対象とするてんかんセンターカンファレンスを計11回（1件は3月予定）、特別講演会を1回開催し（表2）、医師と臨床検査技師を対象とする小児てんかんカンファレンスを44回開催した（令和6年2月末日時点）。COVID-19感染拡大が継続していたが、インターネットを利用したハイブリッド形式による院内研修を行い、予定していた回数を実施することができた。

表 2

回数	開催日	担当診療科	発表者	議題
42	2023年4月14日	脳神経外科	平田幸子	迷走神経刺激装置(VNS)植え込み術後に焦点切除術を再検討している左側頭葉てんかんの一例
43	2023年5月12日	脳波室	仲野浩、寺井弘江、安田善内、川波温大	脳波判読に苦慮した症例
44	2023年6月9日	脳神経外科	平田幸子	幻覚妄想状態で精神科入院し脳波異常を認めた抗NMDA受容体脳炎の1例
45	2023年7月14日	小児科	浅野茉莉香、寺西宏美	「お化けが見える！」などの幻覚・恐怖症状を呈した非けいれん性てんかん重積の1例 テーマ:小児の非
46	2023年8月4日	脳神経内科	藤田宗吾	側頭葉てんかんで発症し、自己免疫性脳炎と鑑別を要した膠芽腫の1例
47	2023年9月8日	脳神経外科	高島和彦	てんかんセンターで紹介された、痙攣を初発症状とした進行性疾患の2例
48	2023年10月13日	神経精神科	渡邊さつき	てんかん外来を受診したが発作性運動誘発性ジスキネジア(PKC)が疑われた症例
49	2023年11月10日	小児科	颯佐かおり	Nocturnal paroxysmal dystoniaの1例
50	2023年12月8日	脳神経内科	藤田宗吾	幻視をきたしたてんかん発作の一例
51	2024年1月12日	救急科	松本佳祐	EC・PCIにおけるてんかん・痙攣の初期治療
52	2024年2月5日	特別講演会	颯佐かおり、長谷川直哉	焦点性運動起始発作の1例、抗てんかん薬の精神系副作用の特徴とその対策、注意すべき患者背景に
53	2024年3月8日	小児科	颯佐かおり、寺西宏美、大滝里美	

②院外でのてんかん研修としててんかん診療支援コーディネーター担当者（佐藤祐子、中澤望美、坂本綾佳、菊山絵美、加藤加奈子）が令和5年度全国てんかん対策連絡協議会てんかん診療支援コーディネーター研修会に2回（令和5年7月23日、12月17日）参加し修了証が授与された。

4) てんかん啓発事業

①一般市民を対象とした啓発事業として、i) てんかん市民公開講座、ii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベント、iii) パープルデー、iv) てんかん啓発のためのYouTubeチャンネル開設を行った。

i) てんかん市民公開講座は2回開催され、第1回目は令和5年5月13日に開催し、講演内容と演者はそれぞれ「やさしいてんかん受診のしかた」山内秀雄、「てんかんを持つ子どもが楽しい学校生活を怒るためのポイント」颯佐かおり、「てんかんと共に活動的に生きるために注意が必要なこと～スポーツ、仕事、運転について～」高島和彦であった。第2回目は令和5年12月9日に開催し、講演内容と演者はそれぞれ、「てんかんに対する脳深部刺激術 ～てんかん手術の最前線～」平田 幸子、「小児てんかん発作の初期対応」寺西 宏美、「てんかんとうつ」村田 佳子であった。

ii) 難治性てんかん・難病希少疾患の啓発イベントでは埼玉医科大学病院内てんかんセンターおよび同難病センター（埼玉県難病診療連携拠点病院）合同企画として「難治てんかん・稀少難病疾患に関するポスター展示会」を令和5年2月13日～29日に開催した。開催期間は毎年2月の第2月曜日が世界てんかんの日に指定され、また2月末日が稀少難病の日であることが開催期間の主な理由である。ASrid (<https://asrid.org/>) より提供される希少難病に関するポスターパネル、てんかんセンターから難治てんかんに関するポスターパネル、難病センターから希少難病に関するパネルの院内提示を行った（図1）。さらに同企画記念講演会として「移行期医療・福祉とその連携を考える」というテーマで4人の講演者による下記の内容の講演会を令和5年3月23日に開催した。

1. 国立精神神経医療研究センター病院 脳神経内科 森まどか
「神経筋疾患の移行期医療-これからのケアと医療」
2. ニモカクラブ（埼玉県飯能市の病気のこどもと家族の会） 和田芽衣
「脱・保護者だけが頑張る子育て～小児医療を支える取り組みの紹介」
3. 埼玉医科大学病院てんかんセンター・小児科 山内秀雄
「結節性硬化症診療連携チームの移行期医療の取り組み」
4. 埼玉医科大学総合医療センター新生児科外来 大津幸枝
「大人になることへの準備と、生涯ライフステージのスムーズな医療・福祉サービスの受け方」

iii) パープルデーは3月26日、28日、29日に埼玉医科大学病院てんかんセンター外来に専用ブースを設置して開催され、てんかん啓発ポスター掲示、医師看護師をはじめとするてんかんセンタースタッフの紫色Tシャツ・パープルデーピンバッジの着用、記念クッキーの配布などを行った。

iv) てんかん啓発のためのYouTube開設を行った。過去3回分の市民公開講座で行った講演記録から10分から15分程度に講演動画を編集作成した。整理完了次第、順次定期的に配信する予定である。

図1



③てんかんに携わる職種対象とする啓発事業として県内小中高等学校及び特別支援学校の教職員・校医、市町村教育委員会及び教育事務所の職員を対象としたてんかん研修会「現場で役立つ小児てんかんの知識 ～発作時の口腔用液ブロラムの使用法を中心に～」を埼玉県教育委員会共催、埼玉県医師会・埼玉県医師会学校医会后援で令和5年10月25日に開催した。参加者は190人名であり、講演会終了に実施したアンケート調査回答者108名のうち講演に対する感想についてとても参考になったが87名（80%）、参考にならなかったが0%であった。一方医師が学校宛てに作成する意見書や与薬依頼書の様式例に関する意見も複数見られ、今後検討すべき課題と考えられた

4. まとめ

令和5年事業計画で企画した内容をほぼ達成することができた。新型コロナウイルス感染症の影響は少なからず見受けられ、同感染症が今年度5月8日に5類感染症移行したものの、感染症予防のために慎重な事業計画の遂行に心がけた。ITを利用した事業を行うことが多くなってきているが、開催のための準備が整ってきており、IT技術面での発展によりその施行は比較的容易となってきた。この利点は今後も事業遂行のために十分に活用すべきであると考えられた。さらに、事業内容をくりかえして視聴・閲覧してもらうための工夫を行ってゆきたい。また、インターネットのみでなく対面式の啓発活動も必要であり、来年度はそれぞれの優れた点を考慮しながら、埼玉県内におけるてんかん診療のすそ野を広げ、てんかんの啓発をさらに進める必要がある。